

改訂第8版の序

がん薬物療法を行う際に、医療者が患者に丁寧に説明・指導することは、今では必須のことになっています。そのことによって治療の有効性や安全性が高まり、患者が安心して治療に参加できることから、診療報酬や調剤報酬においても評価されています。がん患者の精神的なケアや抗がん薬の副作用などの管理の重要性から継続的な指導管理を評価した「がん患者指導管理料」、患者にレジメンを提供し、患者の状態を踏まえた指導を行うことなどを評価した「連携充実加算」、薬剤師がレジメンなどを把握し必要な服薬指導を行い、次回診療時までの患者の状況を確認し、その結果を病院などの医師に情報提供することを評価した「特定薬剤管理指導加算2」、さらには、医師の診察前に薬剤師が服薬状況や副作用の発現状況などを確認・評価し、医師に情報提供や処方提案などを行ういわゆる薬剤師外来を評価した「がん薬物療法体制充実加算」があります。これら患者への説明や指導などを行うには、レジメンの正しい理解が重要となります。

本書はエビデンスのある262のレジメンの投与スケジュール、チェックポイント、副作用対策、服薬指導のポイントなどを薬剤師の視点で分かりやすく丁寧に解説していますので、患者への説明や指導に直ちに活用できます。今回の改訂では、抗がん薬の新たな承認や適応追加、ガイドラインの改訂などに伴うレジメンの追加や修正、さらには、新たな知見に基づいた内容の追加、修正も行っています。

がん診療連携拠点病院やがん領域の専門医療機関連携薬局に勤務する医療従事者だけでなく、さまざまな医療機関や薬局でがん患者に対応する医師や薬剤師、看護師、さらにはがん治療を学んでいる医学生や薬学生などにも本書が有用な一冊になることを願っています。

2025年2月

日本臨床腫瘍薬学会 顧問
北海道薬剤師会 副会長
遠藤 一司